

## ガイダンス資料

### ・本講座の目的

予備試験は、短答式試験、論文式試験、口述式試験と3つの試験により構成されています。この中で、最も通過するのが難しい試験はどれですか？と問われれば、受験生の皆さんの多くは論文式試験と答えるのではないかと思います。しかし、言わずもがな、短答式試験に合格しなければ、論文式試験を受験することはできません。

私は、受験時代に予備試験に向けて勉強する中で、ある思いを抱えていました。それは、「なるべく多くの勉強時間を論文式試験対策に充てたいけれど、短答で落ちてしまうと元も子もないし、短答式試験対策用に効率よく知識を確認できる教材はないかな…」というものでした。当然、そのような教材が皆無だったとは思いませんが、より受験生のニーズに合った短答対策講座を作りたいと考えて、作成したものが本講座になります。

### ・本講座の構成

本講座は、各科目「知識編」と「問題編」に分かれております。

知識編では、短答式試験合格に必要なと思われる知識を、条文を中心にまとめてあります。当然、ただ条文を羅列するのではなく、手続の特徴、条文相互間の関係を意識したレジュメ及び講義になっています。これらを用いて受講生の皆さんには、短答知識のインプット過程、すなわち、短答思考プロセスを感じていただけるような講座を目指しました。講義を聞き終えた後、条文を見たとき、重要な文言が浮かび上がって見えるという感覚を味わっていただきたいです。

問題編では、知識編でインプットした知識を基に、実際に予備試験の過去問を用いて、合格者が現場でどのような思考をして肢を読んでいるのかという解説をしていきます。ここでは、現場思考問題における思考も同様に解説しています。また、各問題について重要度に応じた講師独自のランク分けをしており、いわゆる悪問・奇問と言われるような問題の選別も感じていただけるようになっております。

### ・本講座の使い方

本講座は、短答知識のインプットを効率的に行いたい方でも、インプットを一通り終えた方で、アウトプットをしつつ知識の定着を図りたい方でも使用していただければと思います。また、レジュメについては、最終的に一元化ツールとして使用していただけるものを目指して作成いたしました。講義を聞いていただいた上でのメモや、受講生の皆さんの独自の覚え方・考え方等をどんどん加筆して行って、最終的に条文とレジュメさえあれば知識を全て確認できるような状態にさせていただけたら幸いです。

講義は、音声形式での配信となっております。そのため、移動中や隙間時間などを有効に活用して、耳から短答知識をインプットしていただくことも可能です。